

# 今年は高温登熟年

令和2年8月25日

## 適期収穫で胴割粒・

## 基部未熟粒防止!

長岡農業普及指導センター  
稲作情報(号外)

電話 0258-38-2554

E-mail ngt111440@pref.niigata.lg.jp

- 本年の8月は高温が続いており、胴割粒・基部未熟粒の発生が懸念されます。向こう1か月の平均気温は高い確率が70%です\*1。
- 積算気温表などを参考に、早めに収穫の準備を始め、必ずほ場で籾の黄化程度を観察し、収穫日を決定しましょう。  
(高温年は、収穫適期めやすの積算温度を50℃(2日程度)早める。)
- 8月26日頃から、かなりの高温になる予想です\*2。特に早生品種は、高温により籾水分が急激に低下し、胴割粒の発生が懸念されるため、刈遅れに十分注意しましょう。

\*1: 北陸地方1か月予報(8月20日発表) \*2: 高温に関する早期天候予報(8月20日発表)

### 1 高温年は特に刈遅れによる品質低下を防ぐ

#### (1) 高温年は、収穫適期めやすの積算温度を50℃(2日程度)早める

高温が続いており、胴割粒・基部未熟粒の発生が懸念されますので、下表を参考に、刈り遅れないよう収穫の準備をしましょう。

表 品種別の出穂期と収穫適期のめやす(高温年の場合)

品種	収穫適期のめやす (出穂後積算温度)		出穂期 (管内平均)	高温年の 収穫適期のめやす (積算温度到達日)
	通常年	高温年		
五百万石	975℃	→ 925℃	7月20日	8月24日
わたぼうし	975℃	→ 925℃	7月20日	8月24日
ゆきん子舞	950~1,000℃	→ 900~950℃	7月23日	8月26~27日
こしいぶき	975℃	→ 925℃	7月25日	8月29日
コシヒカリ	1,000℃	→ 950℃	8月5日	9月9日

※収穫適期のめやす(積算温度到達日)は8月24日まで本年値(長岡アメダスデータ)、8月25日からの2週間は平年値+1.9~+3.9℃、それ以降は+1.3℃の予測値(気象庁「向こう2週間・1か月の予測資料」)を採用

#### (2) 収穫適期は、黄化籾割合が85~95%の頃

ほ場で必ず籾の黄化状況を確認しましょう。

## 2 高温下での成熟期は立毛胴割れ発生懸念

- 高温により籾水分の低下が早い場合は、胴割粒の発生が懸念されますので、刈り遅れないように努めましょう。
- 成熟期頃の籾水分が低い状態でフェーン、高温に遭遇すると、立毛胴割れが多発する可能性があるため、特に刈り遅れに注意しましょう。
- 毎時乾燥速度が0.8%を超えると胴割粒が多くなります。胴割れが予想される場合や、フェーンなどの影響で低水分となった籾は、送風温度を低めに設定しましょう。

## 3 高温年は基部未熟粒が成熟期以降急増

適期に収穫し、基部未熟粒の発生を防止しましょう。

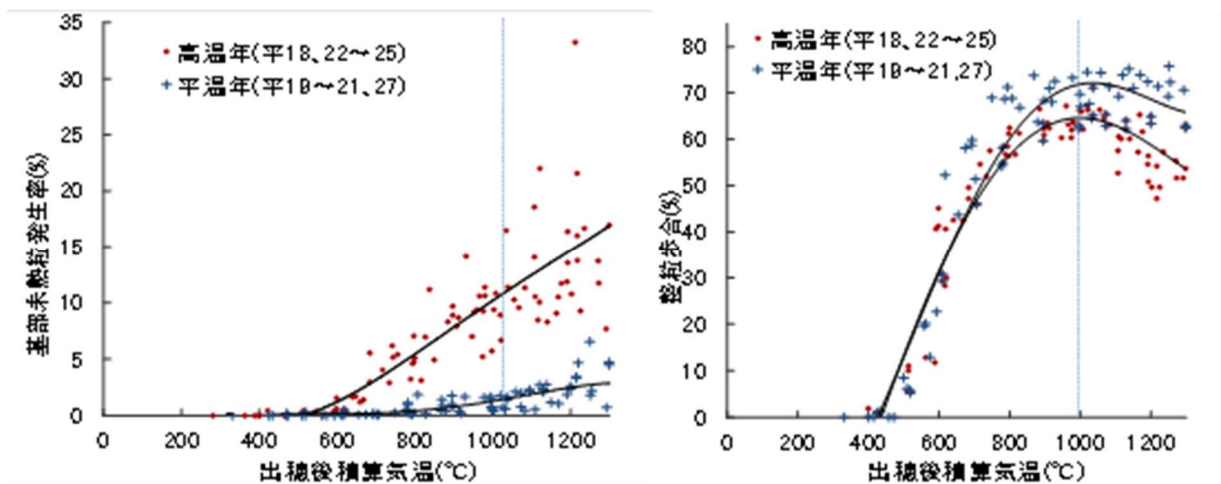


図 登熟中～成熟期以降の基部未熟粒発生率の推移（作研）

図 登熟中～成熟期以降の整粒歩合の推移（作研）

高温登熟年では、成熟期頃（積算気温 1,000°C）以降は基部未熟粒が急増

→ **刈り遅れると品質が急激に低下！**

→ **刈り遅れないことが品質向上に重要**



◎基部未熟粒

基部（胚芽付近）が白濁  
または やせた未熟粒

## 4 飽水管理

中生・晩生品種は、胴割粒の発生を防ぎ、登熟を向上させるため、出穂期 25 日後頃までは飽水管理を行い、可能な限り遅くまで土壌水分を維持しましょう。